

## 視察報告！

# “尼崎市女性センター・トレピエ”

# “性暴力被害者支援センター・ひょうご”

2017, 2, 8 (水)

尼崎市女性センター・トレピエは、平日は行事等でお忙しいので視察は土日の対応とのことでした。見学のみの予定で訪問しましたが、センター長がいらっしゃったので簡単な説明を受けることができました。勤労婦人センターを活用して指定管理で運営。女性センターとして就労支援はもとより、DV相談をはじめ女性の相談や講座を行っています。事業報告書も作成しており、勤労婦人センター40年のあゆみも頂いてきました。5年のプロポーザル契約で多数の団体からの応募があり、工夫や斬新な企画運営に努力をされていることが伺えました。将来は男女共同参画センターとして変化していくとのご説明がありました。



参加者とセンター長を囲んで

性暴力にあった人たちは、ある日突然裏切りと恐怖、混乱、屈辱、それまでの日常生活が一変するような経験を余儀なくされます。そんな人たちを支えていく緊急支援体制を構築して、ダメージから回復され解決の支援につなげたい思いから、2013年4月にワンストップの「性暴力被害者支援センター・神戸」を設立しました。兵庫県立尼崎総合医療センター内に事務局があります。2年前にこの病院が新しくなった際、性暴力被害者支援センター・ひょうごとなり、女性産婦人科医が代表を務めています。

センターに到着すると、事務局の方が受付に迎えてくださり、被害者から連絡をもらった際にどのように案内するかから説明してくださいました。人目のつかない別の入口で待ち合わせ、婦人科の階へエレベーターで速やかに案内されます。まず小さな部屋で話を聞くことから始め、その内容や緊急性によって今後の対応に移していくそうです。警察からの案内、行政からの案内、子どもセンターや養護施設からの案内など様々で、被害者の多くは10歳から15歳。先日は初めて小学生の男児の被害者があったそうです。県や市からの助成もなく、寄り添う支援者は登録制で10人ほど、養成講座は多くの方が受けてくださっているとのことですが、支援者には交通費のみ、そこが課題だそ

うです。社会のひずみにうもれている被害者を全力で救っている人たちに光が当たる社会が必要だと実感しました。医師からは、支援者が寄り添ってくれることで本当に被害者は安心するし、看護師も本来の仕事に専念でき助かっているとのことでした。県下には総合病院のない自治体もあり、岡山県にはこのようなセンターもまだ設置が出来ていません。まず、我々から声を上げて全力で設置に向かっていきたいと決意して帰路につきました。

(文責 頓宮美津子)



5匹のヒョウでひょうごを表しています。いつもユーモアを忘れないそうです。